

2-7

Enjoy Life

ユニットケアの再構築

ユニット

活動

しせいとくへつようごろうじん
至誠特別養護老人ホーム

介護士 ケアワーカー・澤村 翔子

介護士 清水 直美

立川市錦町6-28-15

TEL : 042-527-0061

E-mail : nishiki-tokuyo@shisei.or.jp

FAX : 042-527-0032

URL : <http://www.shisei.or.jp/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

至誠ホームは高齢者総合福祉施設として、昭和26年に養護老人ホームを開設以来半世紀以上にわたり立川の地において高齢者福祉を担い、その時代や地域のニーズに応じた事業を先駆的に展開してきました。至誠特別養護老人ホームは昭和52年に開設し、現在150名の高齢者が4フロアで生活されております。

<取り組んだ課題>

重介護フロアとして位置づけられている為、日常的に介護を必要とする方が大部分をしめている。しかし、利用者の要介護度においては幅広く、部分的な援助により自立した生活を送られる方も共に生活している。それぞれの状態に合わせたケア、活動を提供していきたい。

- ユニットの再構築
- フロア活動の計画化・定着化
- ルーチンワークの改正
- ハード面の改善

<具体的な取り組み>

- 以前は主にADLによる居室ごとにユニット分けをしていたが、ユニットの特性に合わせたケア、活動の提供といった部分に重点を置きユニットの再編成を行なう
- 活動予定表の作成
活動内容の簡単なマニュアル作成
余暇活動メンバーとの連携
- ルーチンワークの見直し
 - ・職員の動きの変更
 - ・食堂の座席の変更
 - ・ケアの提供時間・提供場所の変更
- フロア環境の効果的共有スペースの確保
和のテイストを取り入れた装飾の工夫
環境整備

<活動の成果と評価>

- 居室にこだわらないユニット分けにより利用者の状態に合わせ、所属ユニットの変更が可能となり利用者の状態変化にタイムリーに対応ができるようになった。また、利用者お1人1人の自立度、認知度も含めた個人のスタイルを再確認し、それぞれのユニットにおいてどのようなケア・活動を提供していけばよいか考えることができケアの見直しに繋がった。
- 事前の活動の計画化、予定表への組み込み、必要物品の整備を行なったことで徐々に活動を行うことが可能となってきた。それぞれのユニットに合わせた活動内容とすることで身体的負担がなく活動に参加できる。
- ルーチンの見直しにより効率化を図り、活動などにあてる時間が確保できるようになった。また、今までのケアの見直しきっかけとなり、自らの訴えを声に出す事ができない利用者に対するケアについて考えることができた。
- ご家族と共に過ごすくつろぎのスペースができた。また、その空間を活かして利用者間、利用者職員間のコミュニケーションの機会が増えた。

<今後の課題>

職員側からの考えだけでなく、利用者からの気持ち、意見を汲み取る機会を作りながら今後も活動を継続していく必要がある。